

令和6年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：函館地区
- 2 事例報告学校名：函館市立高丘小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 若林 慎也
- 4 キーワード：地域と連携した持続可能な仕組みづくり

1 はじめに

本校は、函館市の東部、海を見下ろす小高い丘に位置している。文教地区と呼ばれ、周辺には幼稚園、保育園、中学校、高等専門学校、短大、大学がある。また、函館厚生院による各種施設やグループなどが存在する社会福祉地区でもある。

校区内には、広大で緑豊かな和風庭園「香雪園」(国指定文化財庭園)を抱えた見晴公園があり、市民の憩いの場として、また、本校児童の夏冬の野外学習の場として活用している。校地周辺も生き物が行き交う自然豊かな地域である。本年度開校49周年を迎え、通常学級10、特別支援学級3の計13学級229名の児童が在籍している。

2 地域コーディネーターを窓口とした地域学校協働活動の推進

本校の恵まれた立地を生かし、「ふるさと学校に愛着と誇りをもつ子どもの育成」をテーマに特色ある教育活動を展開している。今年度は、地域コーディネーターが配置されたことで、地域や関係機関との連携が一層進んでいる。

(1) 地域町会との連携

① 見守り・挨拶運動

コミュニケーション促進と安全性の向上、地域の協力体制の構築を目的として、今年度から活動を開始した。校区内にある短大の「函館短期大学 見守り隊」の学生と高丘町会の方々がボランティアとして、週2回、火曜日の登校時と水曜日の下校時に、本校玄関前と学校近隣のコンビニエンスストア前に立ち、児童との挨拶運動を行っている。



見守り・挨拶運動

② サマー・スタディー・スクール

長期休業中の児童の学習リズムの確立、家庭学習の習慣化や継続化を目的として実施している。これまで、長期休業中の3日間、学校で行っていた学習支援と高丘町会で行っていた寺子屋の活動を今年度から一体化し、地域住民の協力を得て実施している。



ボランティア清掃活動

③ ボランティア清掃活動

奉仕活動・体験活動を通して、社会奉仕の精神を養うねらいで、World Cleanup Day(毎年9月20日に世界中で一斉に地球を清掃する日)に合わせ、校区内4町会の住民や保護者の方々と共にゴミ拾い活動を行った。児童の主体的な集団活動となるよう、縦割り班を編成し、分別の仕方などあらかじめ自分たちで確かめるなどの事前学習を行っている。

④ 一日防災学校

児童が体験を通して防災について実践的な知識を身に付けると共に、防災意識を高める目的で、初めて企画した。

実施初年度である今年度は、12月に関係団体の協力により、段ボールベッド組立訓練・北海道防災かるた(函館市役所総務部災害対策課)、防災教室(NHK)、救命講習(救命のリレー普及会)の活動を予定している。また、地域ぐるみで防災教育に対する共通理解を深めてもらうため、校区内各町会からもそれぞれ代表数名の方々に参加していただき、児童と共に活動を行うことにしている。

⑤ 放課後子ども教室

函館市子ども未来部子ども健やか育成課が主体となり、年20回、毎週水曜の放課後に校内の余裕教室を活用して実施している。地域住民の方々がボランティアとして指導員となり、遊びや交流活動を通して、子どもたちが安心・安全に過ごせる居場所確保を行っている。

⑥ 町会合同クリスマス会

校区内4町会が合同で、毎年12月に学校の体育館で「町会合同クリスマス会」を実施している。これまでは、1町会単独で実施してきた地域の行事であるが、地域コーディネーターが各町会へ働き掛けを行い、合同実施の形を取ることができた。昨年度は、約50名の児童が参加している。

(2) 高等教育機関との連携

① 見守り・挨拶運動

前述2(1)①の通り

② 栄養教育実習の受け入れ

本校が独自に連携しており、栄養教諭免許取得を希望する函館短期大学の学生が、食に関する指導や給食配膳の様子・喫食の様子を観察を行っている。



栄養教育実習

③ 出前授業の実施

函館工業高等専門学校の教員より出前授業が毎年行われ、今年度は紙ヒコーキづくりの講座が行われた。本校児童も参加を楽しみにしている催し物の一つとなっている。

(3) 幼保・福祉施設との連携

① 地域交流の実施

毎年全学年で校区内にある幼稚園、保育園、福祉施設との交流活動を行っている。

学年	訪問先	学年	訪問先
1年生	新1年生体験入学	2年生	永楽荘デイサービス
3年生	百楽園デイサービス	4年生	救護施設 高丘寮
5年生	高丘幼稚園	6年生	つくし保育園



保育園児との交流

4 おわりに

予測困難な時代において、学校を取り巻く環境は大きく変化している。

5年後、10年後、そしてその先を見据え、持続可能かどうかの観点から前年踏襲を見直し、教育的効果がある行事・活動を目指している。

今年度、地域や関係各所の協力を得て、地域学校協働活動をより一層推し進めることができ、改めて地域の中で児童が育てられているという実感を得た。しかし、学校の管理職や地域連携担当教師、地域で関わる人は、年々入れ替わっていく。

今後も地域の人的・物的資源を活用し、地域社会と連携・協働しながら教育活動を展開するために、「持続可能な仕組みづくり」に注力していきたい。